

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

中国の景況感は一進一退の状況 (Asia Weekly (9/26~10/1))

～韓国ウォン安は輸出を支える～

発表日: 2011年10月3日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/26 (月)	(ニュージーランド) 8月輸出 (億 NZ ドル)	34.4	34.4	37.2
	8月輸入 (億 NZ ドル)	40.8	37.8	36.1
	(シンガポール) 8月鉱工業生産 (前年比)	+21.7%	+11.2%	+7.6%
	(前月比/季調済)	+3.9%	▲5.0%	+0.4%
9/27 (火)	(香港) 8月輸出 (前年比)	+6.8%	+7.5%	+9.3%
	8月輸入 (前年比)	+14.1%	+10.0%	+10.2%
9/28 (水)	(タイ) 8月製造業生産 (前年比)	+6.96%	+4.00%	▲0.66%
9/29 (木)	(台湾) 金融政策委員会 (政策金利)	1.875%	1.875%	1.875%
9/30 (金)	(韓国) 8月鉱工業生産 (前年比)	+4.8%	+5.8%	+4.0%
	(前月比/季調済)	▲1.9%	▲0.3%	▲0.3%
10/1 (土)	(中国) 9月製造業 PMI	51.2	51.2	50.9
	(韓国) 9月輸出 (前年比)	+19.6%	+16.6%	+25.9%
	9月輸入 (前年比)	+30.5%	+28.7%	+28.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[中国] ～内外需の堅調を反映して先行きの生産に拡大の兆し～

1日に物流購買連合会が発表した9月の製造業PMIは51.2となり、前月(50.9)から+0.3p改善した。全20業種のうち資源関連やエネルギー、完成品製造部門など10業種が50を下回ったものの、中間財や消費財部門は50を上回っており、内需関連を中心に底堅い。生産は52.7(前月比+0.4p)に改善し、新規受注も51.3(同+0.2p)、輸出向け新規受注も50.9(同+2.6p)と改善しており、内外需ともに先行きの生産拡大を示唆している。なお、足下の金融市場の混乱により国際商品市況が調整していることを反映して、購買価格は56.6(同▲0.6p)と若干低下したものの、依然高水準で推移している。

なお、30日にHSBCが発表した9月の製造業PMIは49.9と前月と同じとなり、3ヶ月連続で中立水準の50を下回っている。

図1 CN 製造業 PMI の推移



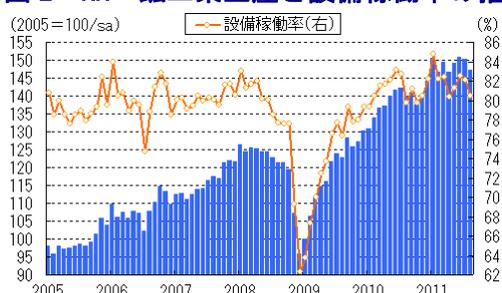
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【韓国】 ～足下のウォン安などにより輸出は底堅く、先行きの生産を下支えする可能性も～

30日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+4.8%となり、前月（同+4.0%）から加速した。しかし、前月比は▲1.9%と前月（同▲0.3%）から2ヶ月連続で減少しており、世界経済の減速による輸出への悪影響から減産圧力が高まった。これによって平均設備稼働率も80.5%と2ヶ月連続で低下しているが、依然として高水準は確保している。出荷・在庫バランスも世界的な需要低迷を背景に電子部品などで悪化しているものの、自動車では改善がみられるなど、分野ごとに差が生じている。

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比+19.6%となり、前月（同+25.9%）から減速した。ただし、前月比は増加しており、金融市場の混乱に伴うウォン安や、8月からのEUとのFTA発効が下支えしている。一方、輸入額は前年同月比+30.5%と前月（同+28.9%）から加速した。前月比も増加しており、原油輸入の増加が押し上げ要因となっている。同国では先月15日の大停電などもありエネルギー需給は問題となっており、資源輸入は当面底堅く推移しよう。結果、貿易収支は+14.35億ドルと前月（+4.79億ドル）から黒字幅が拡大している。

図2 KR 鉱工業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 KR 設備投資動向の推移



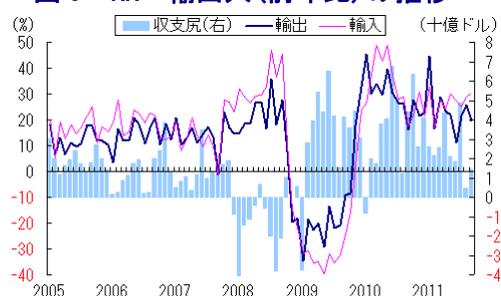
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 KR 出荷・在庫バランスの推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 KR 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 KR 為替相場の推移



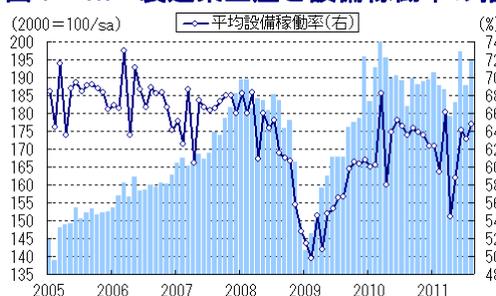
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【タイ】 ～日本向け輸出の堅調を背景に生産は底堅いが、先行きは世界経済の減速が重石に～

28日に発表された8月の製造業生産高は前年同月比+6.96%となり、前月（同▲0.66%）から2ヶ月ぶりにプラスとなった。前月比も+3.88%と2ヶ月ぶりに増加している。東日本大震災による部材調達問題は生産

の下押し要因となったものの、これは解消して輸出産業を中心に生産回復の動きが進んでおり、平均設備稼働率も64.74%に改善している。8月の輸出額は前年同月比+31.1%と前月(同+38.3%)から減速したものの、日本向けなどをけん引役に前月比は増加しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新している。世界経済の減速による悪影響は懸念されるものの、外資企業による同国への生産移管も進んでおり、これは生産を下支えしよう。なお、新政権による政権公約では、来年1月から最低賃金が全国一律で300バーツ/日に引き上げられる見通しであり、これは今年に比べて35.7~88.7%の大幅引き上げになる(現在は州ごとに最低賃金が異なる)。政府は法人税減税を同時に実施することで企業負担の軽減を図る方針を明らかにしているが、労働コストの上昇は、外資を中心とする企業活動に少なからず影響を与えよう。

図7 TH 製造業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 TH 輸出額の推移

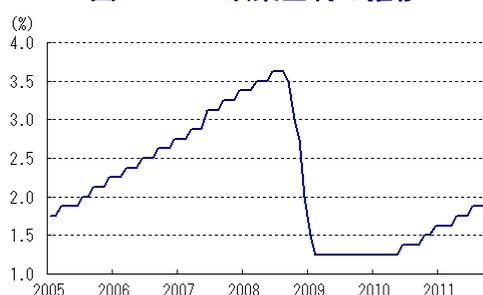


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【台湾】 ~金融市場混乱の影響や物価上昇圧力の後退により、6回ぶりの金利据え置き~

29日、台湾中央銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を6回ぶりに1.875%に据え置く決定を行った。足下の金融市場の混乱が実体経済に悪影響を及ぼす懸念が高まっており、主要輸出先である欧米先進国経済の低迷長期化により先行きの景気減速も避けられず、一方で8月の消費者物価上昇率は前年同月比+1.34%と落ち着いてきていることから、金利を現行水準で据え置くことで様子見を図っている。これまでの5回連続の利上げなどにより、足下のマネーサプライ(M2)の伸びは金融当局の目標(2.5~6.5%)の範囲内に収まるなど、過剰流動性リスクの後退も金利据え置きを後押しした。バブルが懸念されてきた不動産価格は依然高水準であるものの、伸び率はピークアウトするなど金融引き締め効果は窺える。なお、足下の金融市場の混乱により台湾ドルが急激に下落していることから、当局は為替安定の観点から介入実施も辞さない考えを示している。

図9 TW 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 TW 消費者物価(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 11 TW マネーサプライ(M2)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 12 TW 不動産価格(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 13 TW 為替相場(対米ドル、日本円)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上